

子ども大学みよしの実践 ～小学生・中学生・大学生の交流～

1 実践のねらい

- (1) 小学生、中学生、大学生の三者が、講義、レクリエーション、グループワークなどの集団行動を通して、家庭や学校とは異なる環境での学びや、年齢の異なる仲間とのコミュニケーションの図り方を学ぶ。
- (2) 前年度に実施した「ジュニアリーダー・レクリエーションリーダー研修会」で得た技能や心得を活かし、講義での研修成果発表と活用方法を検討し、レクリエーション発表や講義中のアイスブレイクを計画・実施することで、子供向け事業の運営ノウハウの一端を学ぶ。

2 事業計画

月日	講義名【会場】
6 / 24(土)	講義1「パネルシアターでお話し作り」【淑徳大学埼玉キャンパス】
7 / 15(土)	講義2「福祉の仕事体験」【埼玉ロイヤルケアセンター】
8 / 4(金)	講義3「キンボール体験」【三芳町立総合体育館】
10 / 7(土)	講義4「みんなで演劇を作ろう!」【三芳町立中央公民館】
11 / 18(土)	講義5「羽田空港のお仕事」【淑徳大学埼玉キャンパス】

3 事業内容

(1) 学生スタッフとして小学生と交流

学生スタッフとして子ども大学の運営に携わりながら小学生と交流する。

(2) 講義内でのアイスブレイク、レクリエーションの担当

- ア レクリエーション発表や講義の中でアイスブレイクを計画・実施する。
- イ 修了式時のレクリエーション発表を計画・実施する。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 中学生スタッフが加入し迎えた2年目。青少年向けの事業として、より柔らかく活発な雰囲気となった。大人では気づけないことに気づき、小学生たち学びのサポートをしてくれた。以前から参加している学生スタッフもその効果を感じて「今年は今までよりも、打ち解けるのに時間がかからなかった。」と述べていた。様々な人が関わり合うことから生まれる効果を感じた一幕だった。



修了式でアイスブレイクのリーダーを務める中学生スタッフ

イ 「また来年も子ども大学をやってほしい」という受け身な意見より、「私も大きくなったらスタッフで参加したい。」という積極的な意見が多くなったと感じる。身近なお兄さんお姉さんだけど、自分たちより能力のある大人としての学生スタッフ。その行動から様々なことを感じ取り、自分もそのような大人になりたいと小学生は感じているようであった。子ども大学みよしの異年齢交流における最たる成果である。

(2) 参加者からの声

ア 小学生の声

「これから私たちが、色々な世代の人と協力していくのは、大事なことだと感じた。」

「私たちより大人だけど大人じゃないみたいな存在だから、聞いてもらいやすかった。」

イ 中学生スタッフの声

「たくさんの笑顔もらった。」

「まだ知らない事がたくさんあることが分かったし、小学生への接し方も学べた。」

「進学・就職で、コースや職種を決める時に役立てたい。」

ウ 大学生スタッフの声

「今年が一番、異年齢交流が盛んと感じた。中学生がいてくれたおかげで早く打ち解けられた気がします。」

「この事業を通じて、多くの年齢層、様々な立場の人と接するべきだと思いました。コミュニケーション能力を高める上で貴重な体験ができた。」

「何気なく始めた学生スタッフですが、いつのまにか参加するのが楽しみになっていきました。人見知りを克服することができたし、コミュニケーション能力が少しは身に付いたと思います。」

エ 保護者の声

「昨年は言わないとやらなかったことを、今年は言われる前に進んでやっていました。一年でこんなに大人になっていて、びっくりしました。」

(3) 課題

ア スタッフ募集

前年度からの課題であった高校生の参加は、今年もなかった。また町内全ての中学校から生徒を集めることができなかった。町内や近隣に高校がないのも一因ではあるが、打開策を考えていきたい。

イ 学生スタッフのスケジュール調整

大学生・中学生スタッフはともに3年生となり、中学生は高校受験、大学生は就職に向けて特別授業が増えるなど、事業当日に参加できないスタッフが増えてしまった。

ウ 事業内容の確認、役割の伝達の徹底

学生スタッフが、役割を見つけられず、手持ちぶさたになってしまう場面も見受けられた。講義当日のタイトスケジュールに対応するため、直前のスタッフミーティングを徹底するなど、改善が必要である。

エ 事業の継続と安定化

学校や家庭以外の楽しく居心地のいい場所。また、自らの成長の場と感じ、スタッフとして継続参加を希望する声が多い。卒業した児童が中学生スタッフとしての参加を表明してくれてもいる。彼らの今後の成長のためにも、事業の継続実施と運営の安定化は不可欠と考える。

学生スタッフの貴重な意見や行動力を具体化する人手や時間も増やしたい。そのためには、地域の子供の学びのために協働してくれる「子ども大学父母会」のような組織づくりの必要性を感じている。



大学生スタッフと小学生の交流。実行委員の大人では、ここまで和やかにはなりません。



中学生スタッフと大学生スタッフ、本当によく務めてくれました。ありがとう!